

平成 22 年
4 月 27 日

病害虫発生予報 5 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦類：赤かび病	1
ナシ：黒星病	1
ナシ：ナシヒメシンクイ	2
夏ネギ：べと病	2

【その他の病害虫】	2
水稲，ナシ，カキ，促成ピーマン，半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，メロン，スイカ	

. 病害虫ミニ情報

ナシ黒星病の防除対策について	4
アザミウマ類の防除対策について	5

. 今月の気象予報	7
-----------	---

. テレホンサービス	7
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 22 年 4 月 21 日現在のものです。

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を 1 週間程度とすること。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦 類

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在、六条大麦及び小麦の出穂期は平年よりやや遅い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

小麦は、出穂期から穂揃い期に開花を確認したら防除を開始する。播種時期によって生育ステージが異なるので、圃場ごとの生育状況をよく確認し、適期に必ず薬剤散布を行う。

本病原菌は、六条大麦・小麦では開花期、二条大麦では穂から葯が押し出されてくる時期(穂揃い期の10日後頃)が最も感染しやすい。この期間に降雨が続く、気温が18~20以上になると本病の発生が多くなるので、この期間の気象には十分注意する。

1回目の薬剤散布後、発病の好適条件が続く場合は、7~10日後に2回目の散布を行う。ただし、出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

倒伏や収穫の遅れにより発生が助長されるので、適期収穫に努める。また、収穫後は速やかに乾燥調製を行う。

(平成22年4月8日発表の病害虫情報 No.1 参照)

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

昨年秋季の秋型病斑の発病度及び発生地点率は平年よりやや高く、秋季にまとまった降雨があったことから、菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。

笠間市のナシ品種「幸水」の満開期は4月26日と平年より5日遅いため(園芸研究所 果樹研究室 4月26日調査)、本病の果そう基部での発生時期も遅れていると考えられる。

[防除上注意すべき事項]

果そう基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。また、園内に落葉が残っている場合は早急に落葉を集め、土中深く埋める。落花期の薬剤散布は、黒星病を防除する上で特に重要であるので、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて適期に確実に実施する。

薬剤散布は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

4 月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺時期及び誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

コンフューザーNを設置する園では，設置前にシンクイムシ類の防除を実施する。
薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

夏ネギ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	-	県下全域

[予報の根拠]

4 月中旬現在，春ネギ圃場において発病株を確認した。
ここ数年多発生が続いており，圃場内の菌密度が高まっていると推察され，多発生が懸念される。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を丁寧に行う。
肥料切れや多肥は発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生時期：遅い 発生量：-	4 月下旬現在，活動開始時期は平年より遅い。向こう 1 か月の気温は平年より低いと予想され，イネミズゾウムシの本田での生息数が最高に達する時期は，県南・県西地域では 5 月下旬頃，県北・県央・鹿行地域では 6 月上旬頃になると予想される。
ナシ	アブラムシ類	発生量：平年並 ～やや少ない	4 月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。発生密度の低いうちに参考防除例に基づいて薬剤散布を行う。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
カキ	カキクダアザミウマ	発生量：平年並	4月下旬現在，発生を認めない。新葉が巻き込む被害が認められたら，直ちに防除を行う。
ピーマン 促成	タバココナジラミ	発生量：平年並 ～やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
ピーマン 半促成	ハダニ類	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
ピーマン 促成・半促成	斑点病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成トマト	疫病	発生量：多い	4月下旬現在，平年より多い発生である。
	灰色かび病	発生量：多い	4月下旬現在，平年より多い発生である。
	ハモグリバエ類	発生量：多い	4月下旬現在，平年より多い発生である。
促成キュウリ	オンシツコナジラミ	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
メロン	つる枯病	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	4月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
スイカ	つる枯病	発生量：平年並 ～やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。

ナシ黒星病の防除対策について

ナシ黒星病は近年発生が多く、昨年10月中旬の秋型病斑の発病度が1.1(平年0.6)、発生地点率が72%(平年47%)と、本年も越冬菌が多いと推察されます(平成21年度病害虫情報No.11:平成21年10月21日発表)。そのため初期防除を徹底する必要があります。また、本年はナシの開花が平年より遅く(品種「幸水」の開花始めは笠間市の園芸研究所で4月21日(平年4月16日))、低温の日が続いていることから開花がだらだらと続くことが予想され、受粉作業と防除作業を的確に実施し、適期防除を行うことが重要となります。

1. 果そう基部病斑

4月下旬の巡回調査の結果、果そう基部病斑の発生は、県北及び県央地域のみ認められ、発病果そう率が0.1%と昨年同様の発生で、県南地域及び県西地域では発生は認められませんでした(表1)。

表1 ナシ黒星病の果そう基部病斑の発生状況(4月下旬¹⁾)

	発病果そう率(%)			
	2010年	2009年	2008年	2007年
全県	0.0	0.3	1.2	0.2
県北及び県央	0.1	0.1	0.6	0.1
県南	0	0.2	0.5	0.4
県西	0	0.5	2.0	0.1
年間の全県での発生状況		平年より多い	平年より多い	平年より多い
注意報発表日 ²⁾		6月29日	5月1日 7月4日	6月26日

1) 調査地点数は県北及び県央地域が4圃場、県南地域が6圃場、県西地域が9圃場。

2) ナシ黒星病に関する病害虫発生予察注意報の発表日

2. 今後の防除対策のポイント

- 1) 伝染源は、落葉から飛散する子のう胞子と果そう基部病斑に形成される分生子があります。そのため、サイドネット付近など園の隅に寄せられ残っている落葉は園外に持ち出し、適切に処分します。また、果そう基部に病斑が認められた場合は、直ちに果そうごと除去し、同様に処分します。
- 2) 前回の薬剤散布後から落花期におけるDMI剤(スコア顆粒水和剤)の散布間隔が、10日以上空かないように散布します。なお、薬剤散布は、「平成22年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」を参考に実施します。
- 3) 薬剤散布はかけむらがないように丁寧に行い、圃場の周辺部など、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行います。

アザミウマ類の防除対策について

アザミウマ類は体長が約 1mm の微小害虫で、茨城県においては主にミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマの発生が多く見られます。これらアザミウマ類は多くの作物に被害をあたえる他、各種ウイルス病も媒介しますので以下のことを参考に防除を行ってください。

1. 発生推移

アザミウマ類は夏季から秋季にかけて活動が活発になります。当所の巡回調査においても気温が低くなる冬季は発生が少なくなりますが、気温が高くなる春季以降は発生が多くなります（図 1）。これからアザミウマ類の活動が活発となる季節となりますので、十分注意が必要です。

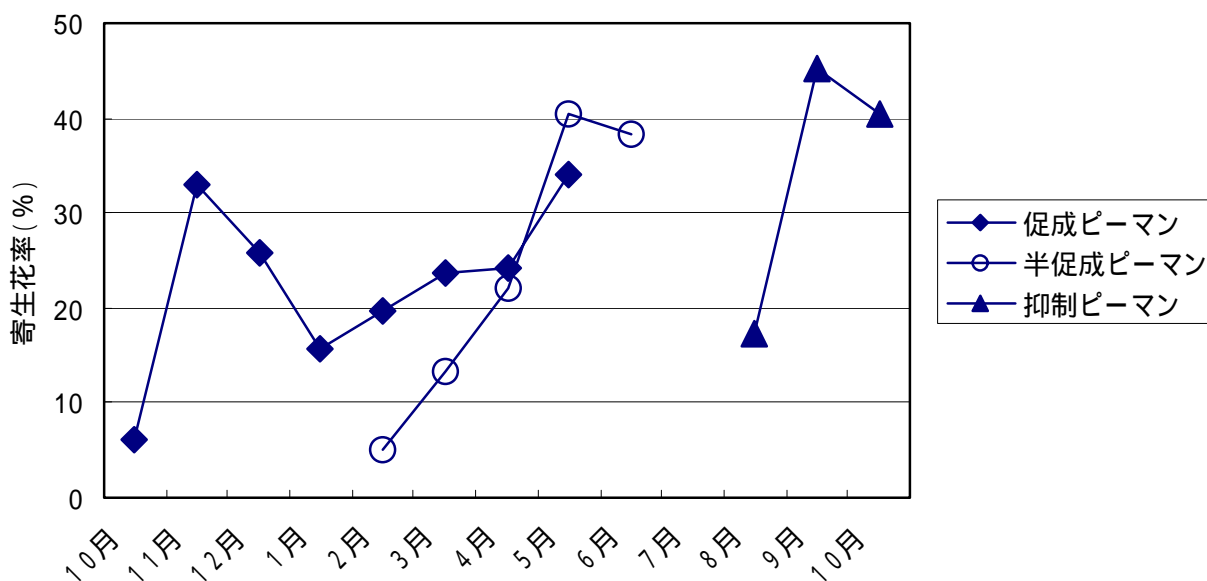


図 1 施設栽培ピーマンにおけるアザミウマ類の寄生花率の推移 (過去 10 年間の平均)

2. 被害の特徴

アザミウマ類は、食害等により葉や花及び果実へ被害をもたらします。アザミウマ類の種類別の主な寄生部位と被害の特徴について表 1 に示します。またアザミウマ類は、表 2 のように各種ウイルス病を媒介するので注意が必要です。

表 1 アザミウマ類の種類別の主な寄生部位と被害の特徴

種類	主な寄生部位	主な被害の特徴
ミカンキイロアザミウマ	葉, 花	葉: カスリ状の白色斑点症状 花: 加害部の変色 果実: 果梗部や果面の変色, 白ぶくれ症状
ミナミキイロアザミウマ	生長点の新葉, 展開葉, 花	葉: 新葉の奇形, 葉脈に沿ったカスリ状の小斑点症状 花: 加害部の変色 果実: 縦線状に褐色のかさぶた状の症状
ヒラズハナアザミウマ	花	花: 加害部の変色 果実: 果梗部の変色, 白ぶくれ症状
ネギアザミウマ	葉, 花	葉: カスリ状の白色斑点症状 花: 加害部の変色

表2 アザミウマ類が媒介する主なウイルス

種類	媒介ウイルス名	感染する作物
ミカンキイロアザミウマ	トマト黄化えそウイルス(TSWV)	トマト, ピーマン, ナス, キク等
	キク茎えそウイルス(CSNV)	キク, トマト
	インパチェンスネクロティックスポットウイルス(INSV)	シクラメン, インパチェンス, トルコギキョウ, マーガレット等
ミナミキイロアザミウマ	トマト黄化えそウイルス(TSWV)	トマト, ピーマン, ナス, キク等
	メロン黄化えそウイルス(MYSV)	キュウリ, メロン, スイカ
ヒラズハナアザミウマ	トマト黄化えそウイルス(TSWV)	トマト, ピーマン, ナス, キク等
	インパチェンスネクロティックスポットウイルス(INSV)	シクラメン, インパチェンス, トルコギキョウ, マーガレット等
ネギアザミウマ	トマト黄化えそウイルス(TSWV)	トマト, ピーマン, ナス, キク等
	アイリスイエロースポットウイルス(IYSV)	ニラ, ネギ, タマネギ, ラッキョウ, トルコギキョウ等

3. 防除対策のポイント

アザミウマ類は増殖が速いので、薬剤の防除効果を十分に発揮させるためには、物理的防除等も取り入れて、防除にあたってください。

【施設、露地栽培共通】

圃場内外に生息するアザミウマ類の密度抑制

- ・圃場内外の除草を徹底してください。(アザミウマ類は多くの雑草に寄生します)
- ・残渣置き場等で自生している野良生え作物があれば、早急に抜き取り処分してください。(アザミウマ類の発生源やウイルスの伝染源になります)

圃場内のアザミウマ類の増加防止

- ・定植時に可能な場合は粒剤を施用するとともに、圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期の薬剤防除を徹底してください。(青色粘着板を利用すれば、発生状況を把握しやすくなります)
- ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行ってください。

圃場内への侵入抑制

- ・圃場の周りに光反射マルチを設置してください。

【施設栽培】

施設内への侵入防止

- ・施設の開口部に1mm目合い以下の防虫ネットを設置してください。
- ・紫外線カットフィルムで被覆してください。(ミツバチや作物の種類によっては影響があります)

施設外への飛び出し防止(栽培終了時)

- ・株元を切断し2週間程度ハウスを密閉して、施設内のアザミウマ類を死滅させる蒸し込み処理を行ってください。

アザミウマ類は雑草も含め多くの植物に寄生するため、防除は産地全体で取り組むことが重要です。産地全体で防除意識を高め、アザミウマ類の生息密度を減らすように努めましょう。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4月24日から5月23日)

気象庁(4月23日 発表)

<特に注意を要する事項>

1週目に気温がかなり低くなるおそれがあります。農作物の管理に注意して下さい。2週目には気温が平年並か高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	50	30	20
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<1週目の予報> 4月24日(土曜日)から4月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率80%

<2週目の予報> 5月1日(土曜日)から5月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 5月8日(土曜日)から5月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

5月上旬 野菜の病害について

5月下旬 果樹の病害虫について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。